

第24回

法律援助を広げる 市民のつどい



～市民の裁判を受ける権利を守るために～

講演

少子高齢化社会における 人工知能・ロボットの 役割を考える～日本文化を踏まえて～



こはら かつひろ
小原克博

同志社大学神学部教授
良心学研究センター長

専門はキリスト教思想、宗教倫理学、一神教研究。先端医療、環境問題、性差別などをめぐる倫理的課題や、宗教と政治およびビジネス(経済活動)との関係などに取り組み。神道や仏教をはじめとする日本の諸宗教との対話の経験も長い。

単著として「世界を読み解く『宗教入門』(日本実業出版社、2018年)、『一神教とは何か』(平凡社新書、2018年)、『宗教のポリティクス』(晃洋書房、2010年)、共著として「人類の起源、宗教の誕生」(平凡社新書、2019年)、『宗教と社会の戦後史』(東京大学出版会、2019年)、『良心学入門』(岩波書店、2018年)などがある。



ミニコンサート



和奏人 宴
wasoubito en

● 山本 朗生 (yamamoto akio)

1991年、プロ歌舞団に入団。民俗芸能、古典芸能を学びつつ、演技者、指導者として全国で活動。2013年より京都を拠点にソロ活動をスタート。和太鼓、横笛、民謡、民舞、三味線他、多様な実演経験を持つ。

● 祝丸 (norimaru)

日本文化を求めて佐渡島の和太鼓集団「鼓篁」の研修所に入所。2年間の研修を終った後、2004年に和太鼓デュオ「黒拍子」を結成。日本の古典芸能家や民俗芸能、さらには演劇や現代アーティストとの共同作業を通して、日本の太鼓音楽や舞台芸術における創造活動を展開している。

● 平 浩之 (taira hiroyuki)

太鼓打ち。能、狂言をはじめ、他分野とのコラボレーションなど、京都を中心に演奏や指導を幅広く行う。日本各地の芸能や祭り、その豊かさや美しさに惹かれ傾倒しながらも、新しい解釈と表現を求めての演奏活動を行う。'04年「BATI-HOLIC」を結成。

人権救済基金の説明と 事例報告

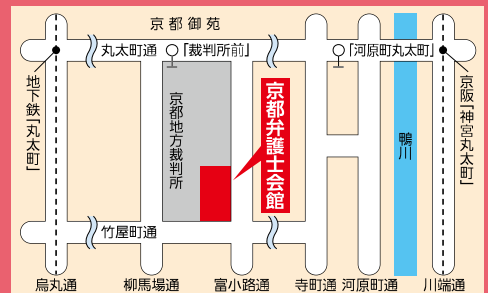
■日時
2020年 1月25日 土
(令和2年)

午後1時30分から午後4時(開場午後1時)

■会場
京都弁護士会館 地階大ホール

先着順・入場無料

主催/京都弁護士会 後援/京都府・京都市・京都地方法務局・京都府社会福祉協議会・京都市社会福祉協議会・京都新聞・KBS京都・日本司法支援センター京都地方事務所



①地下鉄「丸太町」駅から徒歩7分 ②バス停「裁判所前」から徒歩2分
③京阪「神宮丸太町」駅から徒歩12分 ④バス停「河原町丸太町」から徒歩8分

駐車場・駐輪場がありませんので、公共交通機関をご利用下さい

